

2つの円A.Bから導かれる円Cと円D  
と2つのpronityA/B/CとpronityA/B/D

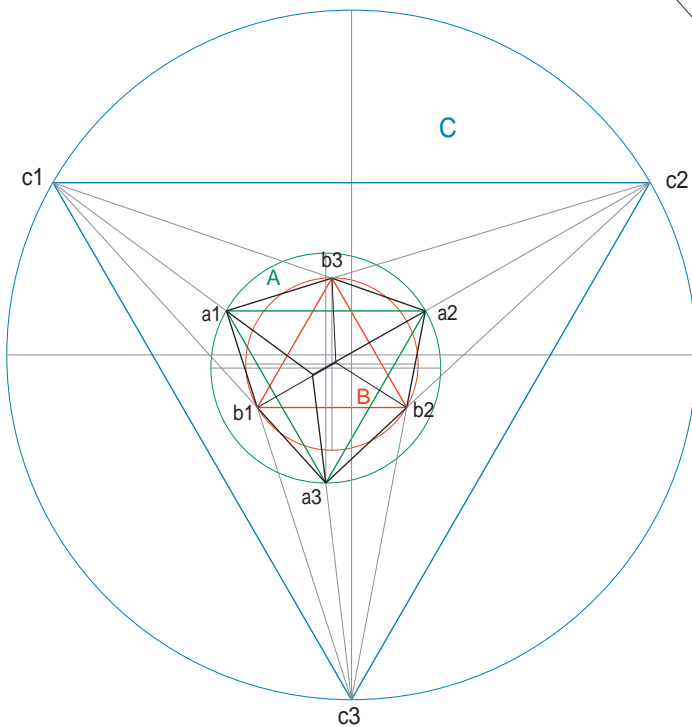
大きさの違う2つの円(A)(B)とプロニティーを持つ円(C)は円A.Bの直径の積を差で割って得られ、もう一つのプロニティーを持つ円(D)は、円A.Bの直径の積を和で割って得られる。又、円Cは円A.Bと焦点を結び(pronityA/B/C)、円Dは円Bと共に、円Aと焦点を結び(pronityA/B/D)。円A.Bに円C.Dを加えた4つの円は、統一された比例関係をつくり、様々な幾何学的関係を生じさせる。

円に内接する正三角形の幾何学的環境

円A.Bに内接する逆正三角形(At)と正三角形(Bt)の3つの頂点と頂点を結ぶ線の延長交点は、円Cに内接する逆正三角形(Ct)の3つの頂点となる。逆正三角形(At)と正三角形(Bt)が接近すると正三角形(Ct)も接近し、(At)(Bt)が交差してヘキサグラムをつくるとき(At)(Bt)(Ct)の3つの正三角形の頂点と頂点を結ぶ線は、3次元の奥行きをもつ立方体を作り出す。この時、正三角形(Ct)の3つの頂点(c1.c3.c5)はヘキサグラム(AT.Bt)に対して、直角3方向への収束点となり、視覚の世界に於ける3つの<消点>の関係に対応する。

60度の回転で結ばれる  
3つの円周上の座標

3つの円周上の正三角形の頂点であるそれぞれの3つの座標を1直線上に結ぶ線分の関係は、点c1から時計回りに60度回転して点b3を通り、又60度回転して点a2にいたる関係であり、点aからは反時計回りの関係となる。



正三角形a.bがヘキサグラム型に重なった時、3次元の奥行きが生まれる。

A.Bの距離(a0.b0)が  
Cの距離(c0.b0)を決める

$$\text{pronity}40/30/120=A/B/C$$

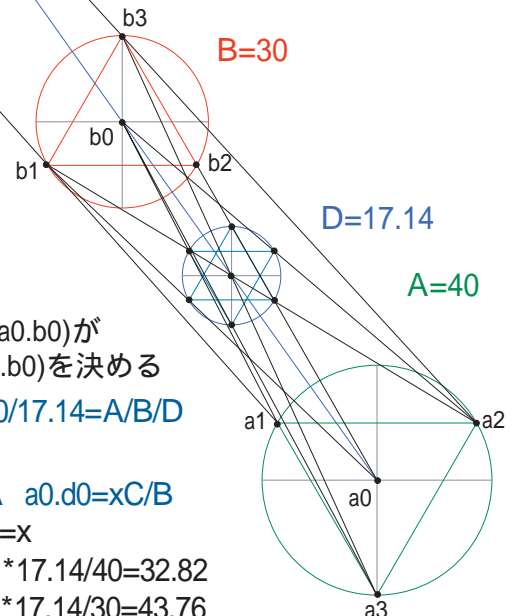
$$a0.b0=x$$

$$b0.c0=xC/A \quad a0.c0=xC/B$$

$$a0.b0=76.61=x$$

$$b0.c0=76.61 * 120/40=229.83$$

$$a0.c0=76.61 * 120/30=306.44$$



A.Bの距離(a0.b0)が  
Dの距離(d0.b0)を決める

$$\text{pronity}40/30/17.14=A/B/D$$

$$a0.b0=x$$

$$b0.d0=xD/A \quad a0.d0=xC/B$$

$$a0.b0=76.61=x$$

$$b0.d0=76.61 * 17.14/40=32.82$$

$$a0.d0=76.61 * 17.14/30=43.76$$